

日本経済政策学会ニューズレター

No. 2

1988

目 次

| | | | |
|---------------|---|------------------------|----|
| ◎ご挨拶 | 1 | ◎新入会員 | 7 |
| ◎総会議事録 | 2 | ◎決算・予算 | 10 |
| ◎会長会務報告 | 3 | ◎役員選出スケジュール一覧(抄) | 13 |
| ◎会員状況 | 4 | ◎その他 | 14 |

ごあいさつ

会長 藤 井 隆

40周年記念出版事業の完了と、戦後40年の経済政策の回顧と展望の、第45回全国大会が盛会のうちに終わりました。日本学術会議経済政策研究連絡委員会のシンポジウムを通じて、学会創立以来の関係深いたくさんの学会の方々にも参加していただきました。

昭和15年以来この50年、日本の経済政策学は大きく展開しました。かつては経済社会の自律的發展を政策的努力によって補完する立場での政策論でした。いま経済政策学は、人間の主体的開発の努力によってより大きい自律性を生み出す開発政策、その自律性を生かし運営していく発展政策、そしてまた再開発へと、不断に連続的再開発をすすめる大きな経済政策の体系となりました。いまや自らの経済の主人としてその運営の全体に責任を持つ学問です。経済政策学としての経済学の誕生です。

日本の経済の発展の中で、この度の大会は学問としても学会としても、新しい飛躍の大会となりました。わが学会がこの学問の発展を通じて世界の学界と経済の発展に貢献していくことができることはまことにご同慶の到りです。ありがとうございました。

日本経済政策学会総会議事録

昭和63年 5月28日

場 所:名古屋大学経済学部 13:00-14:00

1. 大会校挨拶 藤井隆大会準備委員長より挨拶があった。
2. 総会議長選出 (五井一雄副会長)
3. 報告事項
 - (1) 会長会務報告
藤井隆会長より別紙のような報告があった。
 - (2) 横井弘美常務理事より、会員状況、62年度予算の特徴 (本年度は役員選出の年度なので、「名簿作成・選挙費用」を計上していること等) 及び本部事務について報告があった。
 - (3) 各委員会報告
 - (i) 組織委員会
吉田徳三郎委員長より、本年度は役員の改選期に当たるとの報告、及び本委員会の下に組織活性化懇談会がおかれているが、各部会で懇談会を開いて意見をまとめてほしいとの要請があった。
 - (ii) 出版編集委員会
近江谷幸一委員長より、学会年報36号が出来上がったとの報告、及び年報掲載論文のうち海外の文献に引用されたことがあればその点数と雑誌名を知らせてほしいとの要請があった。
 - (4) 各部会報告
各部会 (関東-小薊米清弘、中部-梅下隆芳、関西-丸谷冷史、西日本-今泉博国) から部会報告があった。
4. 協議事項
 - (1) 新入会員承認の件 (別紙参照)
 - (2) 名誉会員推薦の件
 - (i) 藤井隆会長より、学会規則第4条に「常務理事会は永年本学会に貢献した会員を名誉会員に推薦し」とあるが、その推薦基準として、「会長・副会長経験者と常務理事を4期 (12年) 勤めた会員」を一応の目安とすることとし、年齢については70歳

にこだわらず緩やかに取扱いたいとの提案があり、意見交換ののち、これを了承した。

(ii) 小松雅雄早稲田大学教授及び小島清国際基督教大学教授が名誉会員に推薦され承認された。

(3) 決算、予算の件

山田健治幹事より、62年度決算、63年度予算案、及び名簿・選挙費用積立金特別会計と名簿・役員選出関係予算案について説明があり、これらを承認した。

(4) 明年度大会の件

明年度大会は青山学院大学で開催されることになった。

(5) 各委員会提案の件

学会年報第37号の編集方針について、出版編集委員会近江谷幸一委員長より、ア、展望論文（英文）一編を掲載したい、イ、外国文献の書評を復活したい⁽¹⁾ ウ、邦文献書評対象として、西田稔「日本の技術進歩と産業組織」と遠山嘉博「公企業総論」をとりあげたい、との提案がなされ、これらを承認した。また、エ、自由投稿論文の投稿がなかったので、昨年と同様、大会報告者の中から投稿希望者を募集したいとの提案がなされ、これを承認した。

注（1） その後事情が変化し、外国文献の書評は本年度も見送ることになった。

会長会務報告

1. 学会の対外活動について

(1) IEA (International Economic Association), IFSSO (International Federation of Social Science Organization) 及び ISSC (International Social Science Organization) 出席と活動方針

① IEA東京円卓会議が、昭和62年9月15～17日に開催された。次回の第9回IEA世界会議はギリシャのアテネで開催される。

② IFSSOアジア太平洋円卓会議が、昭和62年8月22日にソウルで、8月24～25日に東京で、17カ国から32名の参加を得て開催された。

③ 国連大学とISSCとの連合会議が昭和63年9月19～22日に東京で開催される。

(2) 日本学術会議について

第14期日本学術会議会員に、本学会から、加藤寛氏・五井一雄氏・藤井隆が選出された。また、本学会会員で他学会推薦の大石泰彦氏（地域学会）、大川政三氏（財政学会）、小島清氏（国際経済学会）も選出された。

(3) 経済学会連合会について

今年は田村泰夫名誉会員に英文年報への執筆を依頼した。

(4) 文部省学術審議会について

尾上久雄会員の努力により、本学会の年報刊行助成費として40万円が給付された。

2. 40周年記念事業について

昨年専門部会を終わり、この度『経済政策学の誕生』『経済政策学の発展』の2冊の書物を勁草書房から出版し、記念事業を完了した。

3. 本年度の大会について

本年度の第45回全国大会は、学会40周年の記念事業の完了の大会であり、また学会が10周年ごとに行なっている「日本の経済政策の回顧と展望」の年にあたる記念すべき大会ということで、

(1) 日本学術会議経済政策研究連絡委員会主催のシンポジウム「経済政策の転機—戦後40年の回顧と展望」を誘致した。

(2) 記念出版祝賀をかねて、懇親会を企画した。

(3) 昭和63年6月30日大会事務完了報告を得て準備委員会を解散した。主催大学に篤く御礼申し上げる。

4. 副会長選出の件

小松雅雄、五井一雄両副会長の退任に伴い、常務理事会の議をへて、会長から柏崎利之輔、吉田徳三郎両常務理事を委嘱する旨の報告があり、これを承認した。尚、副会長は会長の委嘱による人事であるので、役員人事は原則として3年であるが、当面両副会長の任期は会長の在任期間とする。

5. 役員選出スケジュールについて

本年度は役員選挙の年度に当たるので、翌年選挙のある旨を告示した。なお、スケジュールについて、吉田徳三郎組織委員長より説明がなされた。

会 員 状 況

(昭和63年 7月23日現在)

1 会 員 数

| | 関 東 | 中 部 | 関 西 | 西日本 | 海 外 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 個人会員 | 587 | 131 | 336 | 76 | 2 | 1,132 |
| 団体会員 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 計 | 588 | 133 | 336 | 76 | 2 | 1,135 |

2 異 動 会 員

訃 報

磯 部 喜 一 梅 田 政 勝 大 熊 一 郎 加 藤 誠 一
佐 藤 正 谷 口 重 吉 都 留 大 治 郎

退 会 者

上 田 宗 次 郎 大 野 英 二 金 田 昌 司 小 林 謙 一
小 林 靖 雄 坂 入 長 太 郎 坂 本 勸 菅 原 藤 也
祖 田 修 竹 中 龍 雄 別 府 芳 雄 前 田 豊 昭
村 野 孝 谷 敷 正 光

所 属 変 更 者 (新 所 属 機 関)

明 石 芳 彦(大 阪 市 立 大 学) 有 泉 哲(茨 城 大 学)
飯 田 隆 雄(札 幌 大 学) 岩 田 文 夫(明 海 大 学)
植 松 忠 博(神 戸 大 学) 臼 井 英 之(成 城 大 学)
大 石 泰 彦(立 正 大 学) 大 塚 宗 元(兵 庫 県 中 小 企 業 団 体 中 央 会)
小 川 喬 義(第 一 經 済 大 学) 小 川 雅 弘(大 阪 經 済 大 学)
奥 村 茂 次(奈 良 産 業 大 学) 尾 山 昌 明(信 州 短 期 大 学)
片 山 誠 一(神 戸 大 学) 金 森 和 彦(大 阪 府 立 産 業 開 発 研 究 所)
北 澤 康 男(甲 南 大 学) 楠 本 博(八 千 代 国 際 大 学)
小 林 昇(大 東 文 化 大 学) 小 林 勝(新 潟 福 祉 医 療 専 門 学 校)

| | |
|-------------------|-------------------------|
| 佐々木 輝 雄(日本獣医畜産大学) | 佐々木 實 雄(八千代国際大学) |
| 柴 田 裕(名古屋学院大学) | 嶋 中 雄 二(財団法人日本経済研究センター) |
| 須 賀 晃 一(福岡大学) | 杉 野 元 亮(九州共立大学) |
| 鈴 木 孝 男(都立航空高専) | 先 崎 健(広島大学) |
| 高 田 一 夫(一橋大学) | 高 田 亮 爾(流通科学大学) |
| 高 田 大 二(日本電子専門学校) | 田 中 悟(神戸市外語大学) |
| 谷 本 一 志(北海道東海大学) | 豊 嶋 忠(愛知学泉大学) |
| 豊 田 光 雄(関西女学院大学) | 苗 不二男(西日本短期大学) |
| 中 島 正 人(玉川大学) | 中 野 守(九州産業大学) |
| 中 島 邦 蔵(名古屋経済大学) | 中 西 毅(常葉学園浜松大学) |
| 直 江 重 彦(京都大学) | 藤 岡 明 房(敬愛大学) |
| 馬男木 三 生(日本文理大学) | 水 野 正 一(中京大学) |
| 森 田 優 三(総務庁) | 元 山 啓(北海学園北見大学) |
| 八 幡 一 秀(光星学院) | 保 田 富 士 夫(嘉悦女子短期大学) |
| 山 本 鎌 造(聖学院大学) | 吉 武 清 彦(釧路公立大学) |
| 吉 田 真理子(大阪府立大学) | 和 田 貞 夫(大阪学院大学) |
| 若 杉 隆 平(信州大学) | |

お 願 い

1. 今年は名簿改訂の年にあたります。住所変更等の届けが出ていない会員の方は、お手数ですが本部までご一報下さい。
2. 亦、次の方々のご住所が不明です。ご存じの方は、本部までご一報下されば幸いです。

蔡 希 賢、 松 本 保 美、 三 宅 輝 男

昭和63年度 新入会員名簿

| 氏名 | 所属 | 推薦者 |
|------|----------------|---------------|
| 相川清治 | 城西大学 | 菅安田 昭吉 信之助 |
| 飯原慶雄 | 南山大学 | 足立文彦 杉山俊治 |
| 石川利治 | 中部大学 | 村田喜代治 酒井邦雄 |
| 石田一之 | 神戸大学 | 丸谷冷史 長尾聡哉 |
| 石田壽朗 | 帝京大学 | 今丹勝郎 井羽春喜 |
| 江川雅司 | 明星大学 | 安田満美 瀬戸明 |
| 太田和博 | 慶応義塾大学 | 加藤藤寛 井弥太郎 |
| 川島康男 | 明治学院大学 | 畑井義隆 大浦一郎 |
| 岸基史 | 同志社大学 | 野間俊威 渡辺弘 |
| 久世了 | 明治学院大学 | 畑井義隆 磯部浩一 |
| 小林正人 | 岐阜経済大学 | 藪山内武健 田健司治 |
| 笹川古日 | 早稲田大学 | 堀江忠男 鶴田俊正 |
| 佐藤伸明 | 大阪府立大学 | 宮本勝浩 渡辺茂 |
| 柴本芳郎 | 経済企画庁 経済研究所 | 加藤良寛 今井隆夫 |
| 千田純一 | 名古屋大学 | 藤井井毛 稲毛満春 |
| 高橋誠一 | 北海道大学 | 望月喜市 増田辰良 |

| | |
|------|----------------|
| 竹中康治 | 東京電機大学 |
| 田中栄一 | 中京短期大学 |
| 寺本浩昭 | 広島修道大学 |
| 中村孚信 | 埼玉工業大学 |
| 新岡育 | 関東学院大学 |
| 新沢秀則 | 神戸商科大学 |
| 新田光重 | 神戸大学 |
| 仁平耕一 | 広島経済大学 |
| 野北晴子 | 広島経済大学 |
| 花井敏 | 南山大学 |
| 羽田亨 | 関東学園大学 |
| 林紘一郎 | 日本電信電話(株) |
| 廣松毅 | 東京大学 |
| 古河幹夫 | 長崎県立国際 経済大学 |
| 松崎慈恵 | 早稲田大学 |
| 水村光一 | 日本大学 |
| 水吉俊彦 | 中部女子短期大学 |
| 宮下国生 | 神戸大学 |

| | |
|--------|---|
| 植草益 | 夫 |
| 鳥居昭 | 彦 |
| 足立文 | 司 |
| 松山昌 | 夫 |
| 田村泰 | 平 |
| 片山尚 | 夫 |
| 田村泰 | 生 |
| 金子和 | 夫 |
| 富森崎 | 初 |
| 阪本靖 | 郎 |
| 北野正 | 一 |
| 大野喜久之輔 | 彦 |
| 吉井昌敬 | 生 |
| 金厚母 | 浩 |
| 金子敬 | 生 |
| 吉田敬義 | 宏 |
| 杉山俊 | 治 |
| 松山昌 | 司 |
| 竹島正 | 男 |
| 鶴川多加 | 史 |
| 藤井弘 | 隆 |
| 横井弘 | 美 |
| 小坂弘 | 行 |
| 今井良 | 夫 |
| 尾上久 | 雄 |
| 清水嘉 | 治 |
| 小松雅 | 雄 |
| 柏崎利之輔 | 之 |
| 千内種義 | 人 |
| 内藤英 | 憲 |
| 瀧澤菊太郎 | 次 |
| 矢嶋鈞 | 次 |
| 新丸庄浩 | 二 |
| 丸谷冷 | 史 |

| | |
|-------|--------|
| 村上由紀子 | 早稲田大学 |
| 山本繁綽 | 関西大学 |
| 家森信善 | 神戸大学 |
| 湯川撮子 | 京都産業大学 |
| 吉野文雄 | 早稲田大学 |
| 若井具宜 | 徳山大学 |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 岡田 | 山中 | 駒 | 隆男 |
| 木守 | 村谷 | 雄二 | 郎明 |
| 丸長 | 谷尾 | 冷聡 | 史哉 |
| 丹小 | 羽林 | 春一 | 喜三 |
| 加田 | 藤中 | 則 | 寛仁 |
| 櫟上 | 本田 | 良 | 功文 |

もうすぐ新しい名簿が作成されますので、住所変更及び電話変更・追加は今回は省かさせていただきます。

日本経済政策学会

| 収 | | 入 | |
|--------------|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 摘 | 要 | 予算額(62年) | 決算額(62年) |
| 61年度よりの繰り越し金 | | 4,497,115 | 4,497,115 |
| 内訳 | 〔 年報回転基金 予備費 | 内訳 〔 1,500,000 2,997,115 | 内訳 〔 1,500,000 2,997,115 |
| 会 費 | | 4,654,000 | 5,312,960 |
| 内訳 | 〔 団 体 個 人 | 内訳 〔 90,000 4,564,000 | 内訳 〔 90,000 5,222,960 |
| 文部省研究助成金 | | 400,000 | 400,000 |
| 利 息 | | 150,000 | 162,497 |
| 総 計 | | 9,701,115 | 10,372,572 |

上記の通り相違ないことを確認いたしました。

昭和63年5月9日

監事 外池正治
高柳 暁

昭和62年度決算書

昭和62.4.1～昭和63.3.31

単位 円

| 支 | | 出 | |
|----|---|--|--|
| 摘 | 要 | 予算額(62年) | 決算額(62年) |
| | 大会費(昭和63年度) | 1,050,000 | 1,050,000 |
| | 部会費 | 340,000 | 340,000 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 関東部会 中部部会 関西部会 西日本部会 | <ul style="list-style-type: none"> 100,000 70,000 100,000 70,000 | <ul style="list-style-type: none"> 100,000 70,000 100,000 70,000 |
| | 専門部会費 | 300,000 | 300,000 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 本部 助成金 | <ul style="list-style-type: none"> 100,000 200,000 | <ul style="list-style-type: none"> 100,000 200,000 |
| | 委員会費 | 257,000 | 54,580 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 組織委員会 国際交流委員会 出版・編集委員会 書評委員会 レフェリー制諸費 | <ul style="list-style-type: none"> 50,000 50,000 157,000 12,000 145,000 | <ul style="list-style-type: none"> 10,000 0 44,580 5,200 39,380 |
| | 年報刊行費 | 2,920,000 | 3,162,000 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 勁草出版支払 年報編集事務費 年報研究費 | <ul style="list-style-type: none"> 2,600,000 270,000 50,000 | <ul style="list-style-type: none"> 3,092,000 70,000 0 |
| | 学術会議研究連絡費 | 20,000 | 0 |
| | 学会連合分担会 | 30,000 | 30,000 |
| | 本部事務諸費 | 1,420,000 | 1,230,011 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 事務諸費 印刷費 通信費 会議費 | <ul style="list-style-type: none"> 700,000 350,000 300,000 70,000 | <ul style="list-style-type: none"> 670,410 217,131 308,210 34,260 |
| | 名簿・選挙費用積立金 | 350,000 | 350,000 |
| 小 | 計 | 6,687,000 | 6,516,591 |
| | 63年度への繰越金 | 3,014,115 | 3,855,981 |
| 内訳 | <ul style="list-style-type: none"> 年報回転基金 予備費 | <ul style="list-style-type: none"> 1,500,000 1,514,115 | <ul style="list-style-type: none"> 1,500,000 2,355,981 |
| 総 | 計 | 9,701,115 | 10,372,572 |

日本経済政策学会 昭和63年度予算書

昭和63.4.1~64.3.31

| 収 入 予 算 | | 支 出 予 算 | |
|-----------------|------------|-------------|------------|
| 62年度よりの繰越金 | 3,855,981 | 大会費 (64年度) | 1,050,000 |
| 内〔年報回転基金 | 〔1,500,000 | 部会費 | 340,000 |
| 訳〔予備費 | 〔2,355,981 | 内〔関東部会 | 〔100,000 |
| | | 訳〔中部部会 | 〔70,000 |
| | | 訳〔関西部会 | 〔100,000 |
| | | 訳〔西日本部会 | 〔70,000 |
| 会 費 | 4,858,000 | 委 員 会 費 | 257,000 |
| 内〔団 体 | 〔90,000 | 内〔組織委員会 | 〔50,000 |
| 訳〔(3団体×30,000) | | 訳〔国際交流委員会 | 〔50,000 |
| | | 訳〔出版・編集委員会 | 〔157,000 |
| 内〔個 人 | 〔4,768,000 | 訳〔(内訳)書評委員会 | 〔12,000 |
| 訳〔([1,162人+30人] | | 訳〔レフェリー制諸費 | 〔145,000 |
| ×0.8×5,000) | | 年 報 刊 行 費 | 3,406,000 |
| | | 内〔勁草出版支払 | 〔3,256,000 |
| | | 訳〔年報編集事務費 | 〔100,000 |
| | | 訳〔年報研究費 | 〔50,000 |
| | | 学術会議研究連絡費 | 20,000 |
| 出版研究助成金 | 400,000 | 学会連合分担金 | 30,000 |
| 名簿・選挙費用積立金 | 705,950 | 本部事務諸費 | 1,520,000 |
| 繰り入れ金 | | 内〔事務諸費 | 〔750,000 |
| 収 入 利 息 | 150,000 | 訳〔印刷費 | 〔350,000 |
| | | 訳〔通信費 | 〔350,000 |
| | | 訳〔会議費 | 〔70,000 |
| | | 名簿作成・選挙費用 | 1,300,000 |
| | | 内〔特別会計 | 〔700,000 |
| | | 訳〔63年度支出 | 〔600,000 |
| | | 小 計 | 7,923,000 |
| | | 64年度への繰越金 | 2,046,931 |
| | | 内〔年報回転基金 | 〔1,500,000 |
| | | 訳〔予備費 | 〔546,931 |
| 総 計 | 9,969,931 | 総 計 | 9,969,931 |

名簿・役員選出関係予算書

昭和63年度

| 摘 要 | 予 算 | |
|---|--|------------------------------------|
| | 収 入 | 支 出 |
| 本 部 よ り 内 訳 { S . 61 年 積 立 S . 62 年 積 立 S . 63 年 支 出 | 1,300,000 内 訳 { 350,000 350,000 600,000 | |
| 会員名簿作成費 内 訳 { 名 簿 印 刷 費 名 簿 作 成 事 務 費 | | 600,000 内 訳 { 550,000 50,000 |
| 名 簿 郵 送 費 内 訳 { 郵 税 そ の 他 | | 380,000 内 訳 { 320,000 60,000 |
| 印 刷 費 | | 50,000 |
| 通 信 費 | | 60,000 |
| 常務理事選任会議費 内 訳 { 交 通 費 そ の 他 | | 210,000 内 訳 { 180,000 30,000 |
| 総 計 | 1,300,000 | 1,300,000 |

次年度大会までの役員選出スケジュール一覧（抄）

| 月 日 | 機 関 | 行 事 |
|------------------|--------------------------|---|
| 昭和63年 10月30日迄 | 事 務 局 | 1. 選挙会員名簿の確定準備 (10月20日所属機関・住所変更届出の期限) |
| 11月1日 | 常 務 理 事 会 | 1. 選挙会員名簿の確定（会員であって会費を継続して3カ年以上滞納した場合は原則として会員の資格を失うものとする） 2. 理事推薦機関とその定数の決定 |
| 昭和64年 1月15日 | 事 務 局 | 1. 1 選挙案内 2 選挙会員名簿 3 投票用紙 4 理事推薦機関と定数表を各会員に送付 (本部から各部会へ一括送付し、各部会が部会員へ送付することになっているが、事務手続上、本部が直接行う) |
| 2月15日 | 会 員 | 1. 常務理事を投票（各地方選挙管理委員会に郵送投票） |
| 2月末日 | 各選挙管理委員会 | 1. 開票・各選挙管理委員会 |
| 4月初旬 | 選 出 さ れ た 新 常 務 理 事 会 | 1. 選挙によらない常務理事の選出、その結果を会長に報告 |

全国大会・地方大会等のご案内

第46回全国大会

1. 日 時 昭和64年 5月27日 (土)・28日 (日)
2. 会 場 青山学院大学 青山キャンパス
3. 共通論題 (土) 世界の中の産業政策 (仮題)
4. 準備委員会委員長 原 豊 常務理事

関東部会研究会

昭和64年 1月28日 (土) 13:30~17:00

亜細亜大学 準備委員長 加藤寿延 Tel 0422-54-3111

中部地方大会

昭和63年11月11日 (金)・12 (土)

四日市大学 準備委員長 城島国弘 Tel 0593-65-6588 (中川)

工場見学会 (11日) 三菱油化(株)四日市事業所
日本合成ゴム(株)四日市工場

研究発表 (12日) 四日市大学

関西部会

昭和63年 9月 9日 (金) 工場見学会 神戸市都市開発事業

西日本部会63年度例会

昭和63年10月 1日 (土)・ 2 (日)

沖縄国際大学 準備委員長 宮城辰男 Tel 09889-2-1111

40周年記念

『経済政策学の誕生』『経済政策学の発展』（勁草書房） 会員としてのお申し込み方法について

1. 会員特別頒価 5,000円（分売不可、二冊一組）送料一組400円です。
市価の半額近い割引ですので、ぜひ学会を通じてお求め下さい。
2. 二組以上ご購入の際は次の点にご注意下さい。
 - (1) 振込用紙裏にご希望の組数と金額（送料含む）を明記して下さい。送料は、二冊一組400円ですので、組数に合わせた送料をお振込下さい。冊数が多いときは宅送便の方が安くなる場合がありますので、勁草出版センターへご相談下さい。
 - (2) ご紹介の場合には、先生のお名前・ご住所とともに、その他の送り先も振込用紙にご記入下されば、勁草出版センターから直接お送りいたします。
 - (3) 図書館など公費で購入される場合には、見積書、納品書、請求書などの用意がありますので、本部へご連絡下さい。
 - (4) 追加ご注文の時も同様にしてお申し込み下さい。

日本経済政策学会の郵便振込口座番号は、東京 2 - 1 6 7 2 0 1
振込先銀行は、東海銀行八事支店 普通 4 8 9 - 3 2 5です。

日本経済政策学会ニューズレター No. 2 (1988年 8月)

編集発行 日本経済政策学会

〒464 名古屋市千種区不老町 1 名古屋大学

経済学部 藤井隆研究室 電話 052-781-5111 (内線 2369)